

I. 運営委員会報告

以下の日程でメール審議を実施した。

1. [H26-010: 採決] 広報・情報担当委員長の解任および当委員会の廃止と、庶務幹事（広報・情報担当）の人事について審議した。原案は全て承認された（審議期間 2014 年 12 月 8 日から 12 月 10 日）。
2. [H26-011: 意見聴取] 植生学会誌・植生情報等の在庫管理について審議し、原案を事務局で再度検討することとした（審議期間 2015 年 1 月 6 日から 1 月 20 日）。
3. [H26-012: 採決] 植生学会大会運営規則の制定および大会企画委員会の新設について審議し、規則制定と委員会設置が承認された（審議期間 2015 年 2 月 24 日から 3 月 8 日）。
4. [H27-001: 採決] 植生学会誌投稿規定・執筆要項の改訂について審議し、改訂が承認された（審議期間 2015 年 4 月 28 日から 5 月 7 日）。改訂内容は以下のとおり。

植生学会誌投稿規定

1 から 5 <省略>

6.

新) 原稿は次の A または B のいずれかの方法で作成して送付し、<省略>。

旧) 原稿は次の A または B の何れかの方法で作成して送付し、<省略>。

7 から 8 <省略>

付則 1.

新) この規定は 2015 年 6 月 1 日より適用する（2015 年 5 月 31 日改訂）。

旧) この規定は 2009 年 11 月 1 日より適用する（2009 年 10 月 31 日改訂）。

付則 2 <省略>

植生学会誌執筆要領

1 から 2 <省略>

3.

新) <省略>。著者と出版年が同一の文献は、年号の後にアルファベットを付して区別する。著者が 3 名以上で第一著者・出版年が同じ文献も同様に区別する。<省略>。

…が明らかにされている（宮脇・奥田 1990; 木佐貫ほか 1992; <省略>）。

旧) <省略>。同一著者で同一発表年のものについては、年号の後にアルファベットを付して区別する。<省略>。

…が明らかにされている（<新規>木佐貫ほか 1992; <省略>）。

4.

新) <省略>

Krebs, C.J. 1978. Ecology: The experimental analysis of

distribution and abundance, 2nd ed. Harper & Row, Publishers, New York.

宮脇 昭・奥田重俊（編）1990. 日本植物群落図説. 至文堂. 東京.

沼田 真 1967. 植物的環境の解析と評価. 「自然: 生態学的研究」

<省略>

旧) <省略>

Krebs, C.J. 1978. Ecology: The experimental analysis of distribution and abundance, 2nd ed. Harper & Row, Publishers, New York.

<新規>

沼田 真 1967. 植物的環境の解析と評価. 「自然: 生態学的研究」

<省略>

16. <削除>

新) 16. 表の説明は表の上部に書くものとし、図の説明は、図の下部に書くものとする。

旧) 17. 表の説明は表の上部に書くものと<新規>する。

新) 17. <省略>

旧) 18. <省略>

新) 18. 最終原稿（作成したアプリケーション形式のファイルとテキストファイル）および原図・写真等（高解像度のもの）は、原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること。

旧) 19. 最終原稿<新規>および原図、写真等<新規>は、原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること。その際にこれらを保存したフロッピーディスク、CD 等（アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること）を添えること。

新) 19. <省略>

旧) 20. <省略>

新) 20. <省略>

旧) 21. <省略>

付則 1.

新) この要領は 2015 年 6 月 1 日以降に投稿された原稿に適用する（2015 年 5 月 31 日改訂）。

旧) この要領は 2009 年 11 月 1 日以降に投稿された原稿に適用する（2009 年 10 月 31 日改訂）。

付則 2 <省略>

5. [H27-002: 報告] 中部地区選出運営委員の蛭間 啓氏が関東地区へ転出したため、3 月末日付けで同地区選出の運営委員を解任されました。後任には次点の崎尾 均氏（新潟大学）が就任しました（報告日 2015 年 5 月 13 日）。

6. [H27-003: 採決] 植生学会誌投稿規定の改訂について審議し、改訂が承認された（審議期間 2015 年 5 月 21 日から 5 月 25 日）。改訂内容は以下のとおり。

植生学会誌投稿規定

1 から 6 <省略>

7.

新) 原稿の送付, その他, 会誌に関する問い合わせ先は, 編集幹事とする。

旧) 原稿の送付, その他, 会誌に関する問い合わせ先は, 編集事務局とする。

8. <省略>

付則 1 から 2 <省略>

II. 編集委員会報告

1. 植生学会誌投稿規定の改訂について審議し、改訂が承認された（審議期間 2015 年 4 月 14 日から 4 月 26 日）。
2. 植生学会誌投稿規定の改訂について審議し、改訂が承認された（審議期間 2015 年 5 月 9 日から 5 月 15 日）。

III. 企画委員会報告

1. 群落談話会「シカ柵による植生保全の効果と限界」が、2015 年 3 月 19 日に日本生態学会第 62 回鹿児島大会（鹿児島大学郡元キャンパス）の自由集会として開催された。

群落談話会「シカ柵による植生保全の効果と限界」

企画責任者: 前迫ゆり（大阪産大・院・人間環境）・富士田裕子（北大・FSC・植物園）

コーディネーター 前迫ゆり（大阪産大・院・人間環境）

話題提供

中静 透（東北大・院・生命科学） 長期的シカ柵からみえてきたこと—大台ヶ原のブナ林の 30 年

高柳 敦（京大・院・農） 集水域と積雪に対応するシカ柵へのチャレンジ—芦生の温帯林

番匠克二（環境省北海道事務所） 行政によるシカ柵の取り組みと課題—戦場ヶ原湿原のシカ対策

石川慎吾（高知大・理） シカによる植生への過剰な影響—ササ草原の消失と斜面崩壊

総合討論

IV. 学会事務局報告

1. 日本野鳥の会フリーマガジン「Torino」31 号の「いま問われる、野生動物と人間との共生（葉山政治著）」に、植生学会企画委員会（2011）ニホンジカによる日本の植生への影響のシカ影響度マップ（全国版）が掲載されました。
2. 改訂版理科の地図帳〈環境・生物編〉（神奈川県立生命の星・地球博物館監修、技術評論社発行）「全国から高山植物が消えた？—ニホンジカによる植物群落への影響—（p72-73）」に、植生学会企画委員会（2011）ニホンジカ

による日本の植生への影響のシカ影響度マップ（全国版）が掲載されました。

3. 日本熊森協会会報くまもり通信 82 号（2014 年 12 月発行）「シカ問題は山問題」に、植生学会企画委員会（2011）ニホンジカによる日本の植生への影響のシカ影響度マップ（全国版）が掲載されました。
4. 平成 27 年度大学入学者選抜大学入試センター試験（本試験）の試験問題「理科総合 B」で、服部ほか（2012）照葉樹林帯の植生一次遷移—特に桜島の溶岩原について—（植生学会誌 29 巻 2 号 p75-90）の図 3 が使用されました。
5. ウェブページに関するアンケートの実施を予定していません（<http://shokusei.jp/enquete.html>）。詳細は後日改めてご連絡いたします。多くの皆様のご協力をお願いいたします。

V. 会員移動（2014 年 4 月から 2015 年 4 月まで）

1. 新入会員（* 学生）

- | | |
|--------|--|
| 郭 英華* | 滋賀県立大学 環境科学研究科 環境動態学専攻 博士後期課程 |
| 乙幡 康之 | ひがし大雪自然館 |
| 大西 史豊* | 和歌山大学大学院 システム工学研究科・宗教法人ほんみち宇陀支部 |
| 設楽 拓人* | 東京農業大学 森林生態学研究室 |
| 鐵 慎太郎* | 兵庫県立大学環境人間学研究所 |
| 木村 絵里* | 東京農工大学大学院 農学府 植生管理学研究室 |
| 船本麻奈未* | 北海道大学大学院農学院 環境資源学専攻 生物生態・体系学講座 修士課程 |
| 小松茉莉奈* | 筑波大学森林生態環境学研究室 |
| 藤彦 祐貴* | 新潟大学大学院 博士後期課程 自然科学研究科 環境科学専攻 流域環境学コース |
| 佐藤 佑樹* | 東京農工大学農学府自然環境保全学専攻 1 年 |
| 須貝 凌* | 新潟大学大学院自然科学研究科 |
| 村上 知帆* | 東京農工大学大学院 農学府 自然環境保全学専攻 植生管理学研究室 |
| 李 昇京* | 東京農工大学 植生管理学研究室 |
| 白田 麻純* | 岡山大学環境生命科学研究所緑地生態学研究室 |
| 上村 晋平* | 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科 |
| 森 優美* | 筑波大学 生命環境科学研究科 土壌環境化学研究室 |
| 大淵香菜子* | 東京農業大学大学院 農学研究科林学専攻 森林生態学研究室 |
| 西平 貴一* | 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 環境科学専攻 育林学・森林生態科学・自然保護学研究室 |
| 森 英樹* | 筑波大学院 生命環境科学研究科 生物資源科学専攻 森林生態環境学研究室 |
| 久保田七海 | アジア航測株式会社 |
| 小山 千穂* | 八戸工業大学大学院 |
| 英 皓* | 立正大学大学院 生物圏環境変遷学研究室 |
| 戎谷 遵* | 広島工業大学院 工学系研究科環境専攻 |

國弘 則夫 (なし)

2. 退会

川上美保子, 中村琢磨, 牧 玲佳, 藤原陸夫, 國崎貴嗣, 小出 大, 牛腸剛己, 広木詔三, 高橋かおり, 根平邦人, 難波清芽, 鳥居太良, 黒岩和男, 岩田直人, 小島 覚, 岩崎慶太, 岡田 彩, 瓜生真也, 古田観佳子, 有馬智子, 林 勇希, 安西直輝, 西熱甫江買買提, 市川晶子ファクソン, 舟木匡志, 中島有美子

3. 宛先不明

奥田 賢, 羽二生亜衣

VI. 植生学会誌校閲者

以下の方々(敬称略, 五十音順)には2014年4月1日から2015年3月31日までの間に受理または不採択(取り下げを含む)となった論文の審査にあたっていただきました。ここに記してお礼申し上げます(*は植生学会員以外)。

石川慎吾, 植村 滋, 梅木 清*, 大野啓一, 沖津 進, 壁谷大介*, 上條隆志, 川西基博, 北原正彦*, 佐藤 謙, 澤田佳宏, 島野光司, 下田路子, 長池卓男, 中村太士*, 野寄玲児, 畠瀬頼子, 服部 保, 伴 武彦, 福嶋 司, 富士田裕子, 星野義延, 本間航介*, 松村俊和, 米林 伸

訂 正

植生学会誌第31巻2号(2014年12月発行)に掲載した論文に誤りがありましたので、次のように訂正します。
原著論文: 蛭間 啓・福嶋 司著「東日本のブナ林に出現する広葉草本種の生育場所は少雪地と多雪地でなぜ異なるのか」

P 182 左段 下から12行目

(誤)

「奥田編著(1997), 千葉県史料研究財団編(2003), および私信」

(正)

「大野(1987, 1996), 奥田編著(1997), 千葉県史料研究財団編(2003), および私信」